

平成29年度研究テーマ **確かな学力を支える読解力の育成**

大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
 (3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

2月9日(金)
徳淵

5年2組 算数科研究授業「割合」(2月6日実施)

今回の校内研では、小学校算数の難関の一つといわれる「割合」について検討できました。研究討議の中で私が重要だと感じたことを含めて、今回の授業研についてまとめたいと思います。

テキストと図、テキストと式を関連づけさせる

議論の一つになったのが、図をどう扱うかでした。本時の中心課題で焦点化すべきところは、「10%引き」という表現でした。この「10%引き」を、図の上で表現させることがポイントの一つだったように思います。1年部、4・6年部からの意見で出たように、テキストと図を行き来させ、「10%引き」がどこにあたるかを明確にする活動が必要でした。

課題の選定

本時では「15000円の10%引き」と「12000円の消費税(0.08%)込みの」の二つを一時の間の中で扱われました。私、個人としてはこの二つは同時に扱うことが可能で、扱うべきだと考えます。(ただ、0.08%ではなく別の割合の方が良かったかな…と波多野先生とも話しました)

「10%引き」も「0.08%増」も割合の見方(「1」に対してどれだけ違うか)は同等であるからです
 ただし、前述したような問題場面を読み解き、図の中で表現させ、「10%引き」と「0.08%増」で増減のちがいはあっても、思考過程としては同じだとおさえることが必要になります。

低学年時から割合に向けた学習経験を積ませる

太田先生からあったように、10や100を「1」とみたり、0.1を「1」とみたりする学習経験は、2・3年生から積ませることが出来ます。「～を『1』とみると…」という表現を低学年時に全員ができる必要はないと思います。しかし、そのような表現に繰り返しふれさせる中で、自分から表現できる児童も増えてきます。その児童が、学年が上がってまた表現する。それを聞き、感覚をつかむ児童が少しずつ増えることで、児童全体の共通の思考・表現になっていくはずですよ。

ちなみに小学校で扱われる乗法の意味は次の3つです。

- ① 1あたり量×いくつ分(例)1mの値段が80円のリボン、2.4m分はいくらですか)
- ② 基準量×何倍(例)1.5mの3倍は何mですか)
- ③ 外延量×外延量(長さ×長さ=面積、速さ×時間=道のり)など)

この3つを指導者が意識するだけでも、児童の数に対する感覚・見方の醸成につながるのではないのでしょうか。

波多野先生、貴重な研究授業、本当にありがとうございました！

1年2組 道徳研究授業（教科等研究会教科外 情報部会）（1月25日実施）



この授業ではICT機器の活用がメインではなく、「情報モラル」をメインとして扱われました。1年生に向けて「著作権」に関する授業を行うというとても貴重な提案でした。

うさ子ちゃんは入院している大好きなおじいちゃんに、おじいちゃんの絵を描いてプレゼントしようと考えました。一生懸命描いていると、そこへぼん太くんがやってきます。ぼん太くんは絵がとても得意。うさ子ちゃんがおじいさんにプレゼントする話を聞いて、もっといい絵にしてあげたいと思い、途中から手を加えて描き上げてしまいます。

うさ子ちゃんは、悩みながらその絵を眺めています。一部始終を見ていたすずめさんが「その絵をおじいさんにあげるの？」と、話しかけます。……

ぼん太くんは、意地悪ではなくうさ子のために絵に手を加えています。ただし、うさ子の同意は得ていません。うさ子も明確に否定したわけでもなく、出来上がった絵を見てプレゼントしようかと悩みます。

お話から、この状況を読み解くのは難しかったようです。しかし、清永先生は子どもたちに一つ一つ丁寧に問いかけながら整理されていきました。

教師が「ぼん太は意地悪じゃないんだよね」と言うのではなく、「ぼん太はどんな気持ちで言ったと思う？」「なんで手伝ってあげたいの？」と次々に問いかけ、子どもたちの言葉で授業を展開されました。

時間もかかり、遠回りのようにも思えます。しかし、同じ教室で学んでいる友だちの言葉で説明されることで、つかませたいことが全体に浸透していく雰囲気がありました。（かえって時間がかかっていないのかもしれませんが）

最終的には、「勝手に絵に手を加えてはいけない」、「他の人が手を加えた絵や描いた絵を自分が描いたということとはできない」。（ただ、同意があればOK）というまとめになりました。

また、授業の冒頭に不完全そうな絵を提示し、「この絵、どうする？」と問い、子どもたちはたくさん描き込みしたいと答えていました。それを授業の終末に再提示することで、冒頭の自分たちの意見は、描いた人の同意を得ていないものであったことを子どもたちに認識させました。1時間の中での自分たちの考えの変容をつかませる工夫もなされていました。

清永先生、研究授業お疲れ様でした！ 台湾で打ち上がってきてください(^▽^)